

OEUVRE

GRADUATION WORK EXHIBITION 2023

東北生活文化大学
美術学部 美術表現学科

OEUVRE GRADUATION WORK EXHIBITION 2023

OEUVRE

GRADUATION WORK EXHIBITION 2023

[ウーヴラ]

TOHOKU SEIKATSU BUNKA UNIVERSITY
DEPARTMENT OF ART

OEUVRE

GRADUATION WORK EXHIBITION 2023

東北生活文化大学
美術学部 美術表現学科
第56回卒業制作展作品集

[ウーヴラ]



2024年2月9日～14日 せんだいメディアテーク5階
ギャラリー a.b.cにて、第56回 東北生活文化大学
美術学部 美術表現学科 卒業制作展を開催しました。

東北・宮城・仙台で美術を学ぶ 美術を生きる力に!

東北・宮城・仙台で、専門的に美術を学べる高等教育機関として、地域のニーズに寄り添いながら、豊かな感性と創造性を育てていきたいと思えます。

CONTENTS

目次

学生インタビュー

- 1 制作を通し、好きなことに正直になれた
高橋 聖香 (彫刻専攻) P.04
- 2 陶芸との出会いが変化のきっかけに
石原 弘翔 (陶芸専攻) P.06
- 3 日々の暮らしを彩るデザイン
太布 萌恵子 (情報デザイン専攻) P.08

卒業制作展作品集 P.10

教員座談会

- 大切なのは、自由に表現すること
自由に語り合うこと P.27
- 伊勢 周平 (総合メディア)
瀬戸 典彦 (造形教育)

佐藤一郎学長からのメッセージ P.32

研究室紹介 P.36

[ウーヴラ] 仏語：作家・芸術家などの全作品の意味

1

学生インタビュー

制作を通し、好きなことに 正直になれた

高橋 聖香さん

秋田県湯沢市出身 彫刻専攻

高橋さんは大学の授業で出会った彫刻に没頭し、制作を通して自分にとっての「好き」を探る中で自身の作風を見つけ出してきました。卒業制作は立体とイラストで構成するノスタルジックな雰囲気の間表現です。卒業後は出身地の秋田県で中学校の美術教諭となることが決まっています。



—— 卒業制作について教えてください。

3体の彫刻作品と複数のイラストを組み合わせた空間表現に挑戦しています。ススキを見ながら母と歩いた時間や、座ったまま眠る自分の姿など、私自身の幼い頃の記憶をモチーフとしています。現在の私のさまざまな制作活動において、記憶の中の色や匂い、情景からアイデアが生まれることが多いので、卒業制作を機会に、あらためて過去を振り返ってみようと思いました。

作品名は「光の中に立っていてね」としました。「光の中に立つ」は「自分に正直である」ことをたとえています。過去の自分から現在・未来の私自身へのメッセージとして表現した作品です。

彫刻もイラストも、ザラッとした素材に水彩絵の具を使うなどして、やわらかくノスタルジックな雰囲気を出せるように工夫しています。

—— 彫刻を学びたくて入学したのでしょうか。

高校時代に興味を持ち始めたデザイン分野を学びたいと思っていました。この大学ならそのほかにも多様な分野を学ぶことができるので、選択肢が広がると思い、選びました。

1年生のときに絵画や陶芸などさまざまな分野の授業を履修しましたが、特に彫刻の授業で石を削る作業に没頭し、自分に合っている分野だと思い、本格的に取り組むようになりました。

大学では、ひたむきに制作を続ける学生たちや、個展を開くような行動力のある友人たちに刺激を受けながら自分も負けじと作りました。2年生の時に1年間かけて制作した作品が「河北美術展」に入選して自信になったし、その後も学内コンクールなどに向けた制作を続ける中で自分の作風が明確になってきた気がします。

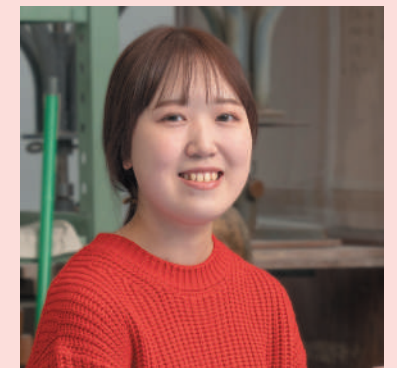
高校生の頃から描いていたイラストも、自分の好きなものを自信を持って描いてSNSなどで発信できるようになりました。

—— 卒業後の進路について教えてください。

秋田県の中学校の美術教諭として働きます。もともと教師という職業に対する憧れがあり、大学で教職課程を履修してきました。教育実習で充実した時間を過ごし、自分が生徒たちに伝えられることがあるのでは、と思い、採用試験の受験を決心しました。

描いたり作ったりすることが好きでも、それを人に見せるときに自信が持てない生徒はたくさんいると思います。その気持ちは私自身がよく知っているのも、好きなものを自由に表現していいのだということを授業や対話を通じて伝えていきたいと思っています。

—— ありがとうございます。卒業制作の完成を楽しみにしています。



2024年6月現在、秋田県の中学校で美術教諭として働いています。

2

学生インタビュー

陶芸との出会いが 変化のきっかけに

石原 弘翔 さん

福島県天栄村出身 陶芸専攻

教員になるという目標を持って入学した石原さんは、大学で出会った陶芸に熱中し、ものづくりが楽しくなったと話します。卒業制作は使う人の心地よさを大切にした茶器セットです。東京都の教員採用試験に合格し、美術教諭になることが決まっています。



—— 卒業制作では何を作っていますか。

急須・湯呑みのセットとティーポット・マグカップのセットを合わせて4セット作っています。これまで丸みを帯びた形の陶芸作品を多く作ってきたこともあり、卒業制作ではさらに曲線の美しさにこだわっています。4セットをいろいろな角度から眺めて形の共通点や違いを楽しんでもらえるような展示にしたいです。

一番大事にしているのは実用品としての使い心地です。誰かと一緒に紅茶を飲んだり日本茶を飲んだりするその時間にどんな形や色の茶器があったらより心地よいかを考えました。イメージ通りの色になるように、釉薬の調合を変えながら試行錯誤しています。

—— 大学での学びについて教えてください。

自分は高校時代も大学に入ってから主にも絵を描いていたのですが、自分から作品で何かを表現する、という取り組み方はできていませんでした。2年生の時、もともと興味があった陶芸の授業を履修してみたら、生活で使う道具を自らデザインして作るということがとても魅力的に感じられ、作ることが楽しくなりました。作ったものを誰かが使ってくれることが嬉しかったし、自分で使ってみる中で「この料理を盛り付けるにはどんな形や色がいいか」などと考えるようになり、作りたいものが自分の中から次々と出てくるようになりました。作ったものを「丹波アートコンペティション」に出品して評価してもらえたことで、さらに制作意欲が高まったと思います。

—— 卒業後の進路について教えてください。

東京都で高校の美術教諭になります。小さい頃からずっと先生になりたいと、大学も教員免許の取得を条件に選びました。

自分が陶芸に出会って打ち込むことができたのは、この大学でいろいろな分野を学ぶ機会があったからだと思います。デザインならデザ



イン、絵画なら絵画と1つにしぼった学び方もあると思いますが、高校生たちにはいろいろなものに触れてみてほしいし、自分が大学で体験してきた陶芸、彫刻、デザインなどの各分野の魅力も伝えたいです。美術の楽しみ方や表現の仕方は多様なのだということを感じてもらえるような授業をしていきたいと思っています。

ただ自分自身、陶芸に打ち込む中で少しずつ考えを形にできるようになってきたところなので、もっと作りたいという気持ちも強くなっています。教員として働きながら、陶芸をもっと深く学べるような機会も作っていきたいです。

—— ありがとうございます。ご経験を生かして活躍されることを願っています。



2024年6月現在、東京都の高校で美術教諭として働いています。

3

学生インタビュー

日々の暮らしを 彩るデザイン

太布 萌恵子 さん

宮城県登米市出身 情報デザイン専攻

デザイン分野への明確な進路意識をもって入学した太布さんは、授業や制作活動を通じて学びを深めつつ、学外からポスター制作を受注するなどしてデザインのスキルを高めてきました。卒業制作は日常生活に彩りを添える食品のパッケージデザインです。卒業後は山形県のデザイン会社への就職が決まっています。



—— 卒業制作について教えてください。

居心地の良い空間や楽しい時間を表す「Hygge (ヒュッゲ)」というデンマーク語があるように、北欧には、家の中を彩って楽しく生活しようとする文化があると私は感じています。卒業制作では、デザインに北欧の要素を取り入れることで冷蔵庫の中が華やかになるような食品パッケージを作っています。

制作にあたり、フィンランドの3人のデザイナーに着目し、その考え方やデザインのアプローチを研究しました。たとえばそのうちの1人であるマイヤ・イソラは、身の周りのものを感じたままに描いた色鮮やかなデザインが特徴です。私も卵などを感じたままに描き、印象に残るような色味で表現しようと試みています。ほかにも、エリック・ブルーンのユーモアを交えたデザインや、カリ・ピッコの不要な要素を省いた表現を参考にしながら、牛乳、豆腐、卵のパッケージを制作しています。

—— デザインを学ぶために入学したのですか。

はい。私がデザインに関心をもったのは中学生の時の職場体験がきっかけでした。パソコンのソフトを用いたキャラクターデザインや看板の印刷・組み立て・現地への設置作業などを体験させていただき、「自分が作ったものが世の中に並ぶって面白い」と思うようになりました。その後もデザイン分野への興味は深まり、もっ



と学びたいと思って入学しました。

大学ではデザインを中心に学びつつ、絵画、版画、彫刻など他の分野の授業でも制作を経験しました。たとえば絵画の制作で触れた絵の具の質感や色のにじみ方がデザインを考える上での新しい発想につながるなど、多様な分野を学べるこの大学だからこそ得られたものがあったと思います。

—— 卒業後の進路について教えてください。

山形県のデザイン会社に就職が決まっています。大学生としての4年間は授業や課題制作を通して学ぶ一方で、楽天球場の楽天タワービジョンに表示する大学の広告や、法務省仙台矯正管区の商品開発でメモ帳の制作などを任せさせていただく機会もありました。コミュニケーションを通じて依頼者の意図を汲み取りデザインという形でアウトプットする、という経験を重ねる中で、これからもそれを仕事にしていきたいと思い、就職先を探しました。就職後も人とのコミュニケーションを大事にしながら視野を広げ、デザイナーとして力を伸ばしていきたいと思っています。

—— ありがとうございました。卒業制作も、これからのお仕事につながるものになりそうですね。



2024年6月現在、山形県のデザイン会社でデザイナーとして働いています。



彫刻

光の中に立っていてね

高橋聖香 Takahashi Seika

石粉粘土、ミクストメディア
70×30×30cm 3点、F10 3点、
円形キャンバス 15cm 3点、他9点

この彫刻作品は、従来の実材（石材や木材、金属）を展開してゆく技法とは異なり、制作者の心情が素材を決めたものです。建築素材のスタイロフォームを芯にして人工粘土を直付けしています。平面作品も彫刻の空間を創る目的で制作されました。人体彫刻の素材感に合わせて水彩などで表現しています。（彫刻研究室 佐藤）



洋画 絵画、乖離と生活 | 佐々木壮太 Sasaki Sota

ミクストメディア

300 × 180cm 4点、194 × 162cm、194 × 130.3cm

大きな木製のパネルにアクリル絵具で彩色し、その描画層を、木工用ボンドを使用して剥がしています。そして、残った大画面と剥がした絵具層の双方を配置して、一連の作品として提示しています。本人は、壁画のストラッポの技法を応用したとのこと。 (絵画研究室 北折)





洋画

夢幻クロニクル

酒井風花 Sakai Fuka

インスタレーション
200 × 270 × 270cm

約1年間にわたり、作り貯めた平面や立体の作品120～130点を、ピンク色を基調とした空間に配置したインスタレーションです。この色調については、大学での4年間一貫してこだわってきました。個々の作品の彩色には、アクリル絵具をはじめ油絵具やクレヨンなど様々な画材が使用されています。(絵画研究室 北折)

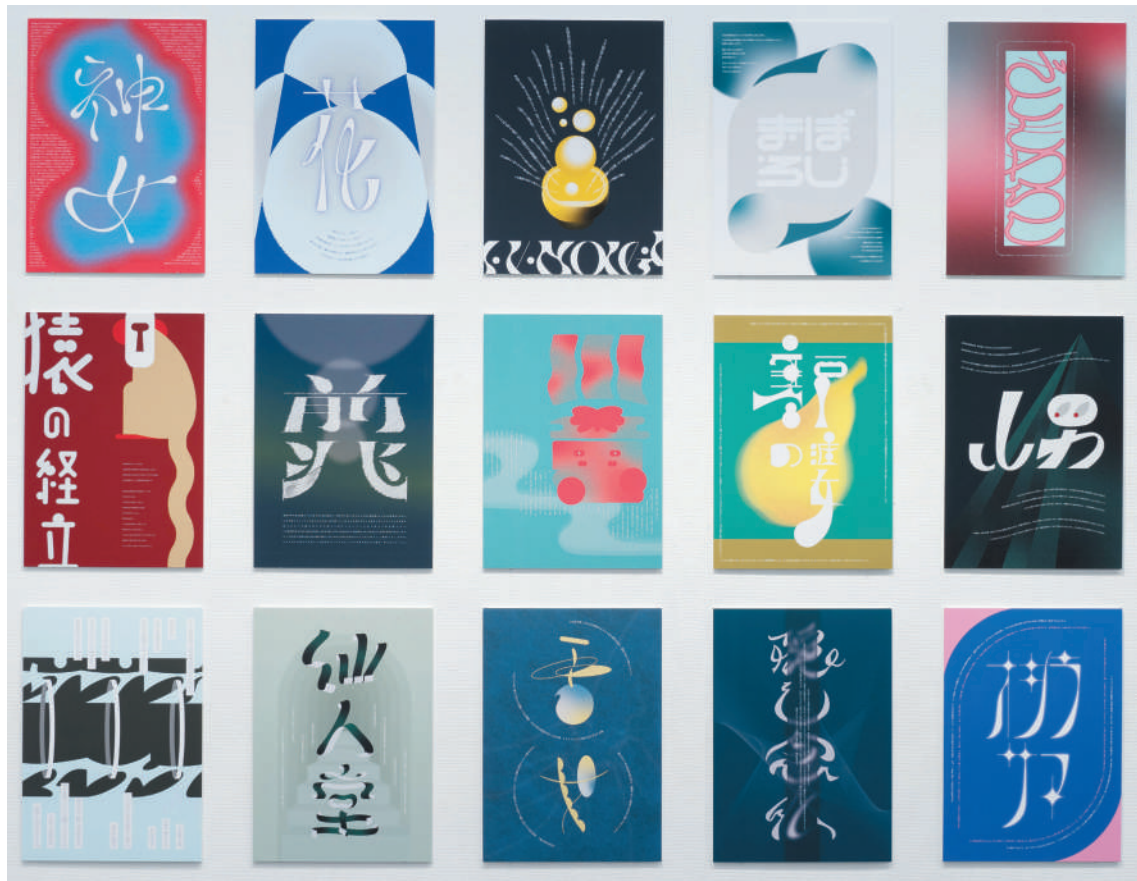


情報デザイン Hygggra ~冷蔵庫の中に彩りを~ | 太布萌恵子 Tafu Moeko

パッケージデザイン、エディトリアルデザイン
 パッケージ計3セット A5冊子



北欧を代表するデザイナー3名(エリック・ブルーン、カリ・ピッポ、マイヤ・イソラ)について調査し、それぞれの特徴を手がかりとしてデザインを展開しました。掲載作品は「ユーモア溢れるキャラクターで人々を笑顔にする— エリック・ブルーン」のデザインポリシーに倣い、卵・豆腐・牛乳のキャラクターを考案しデザインしたものです。(情報デザイン研究室 鶴巻)



視覚デザイン

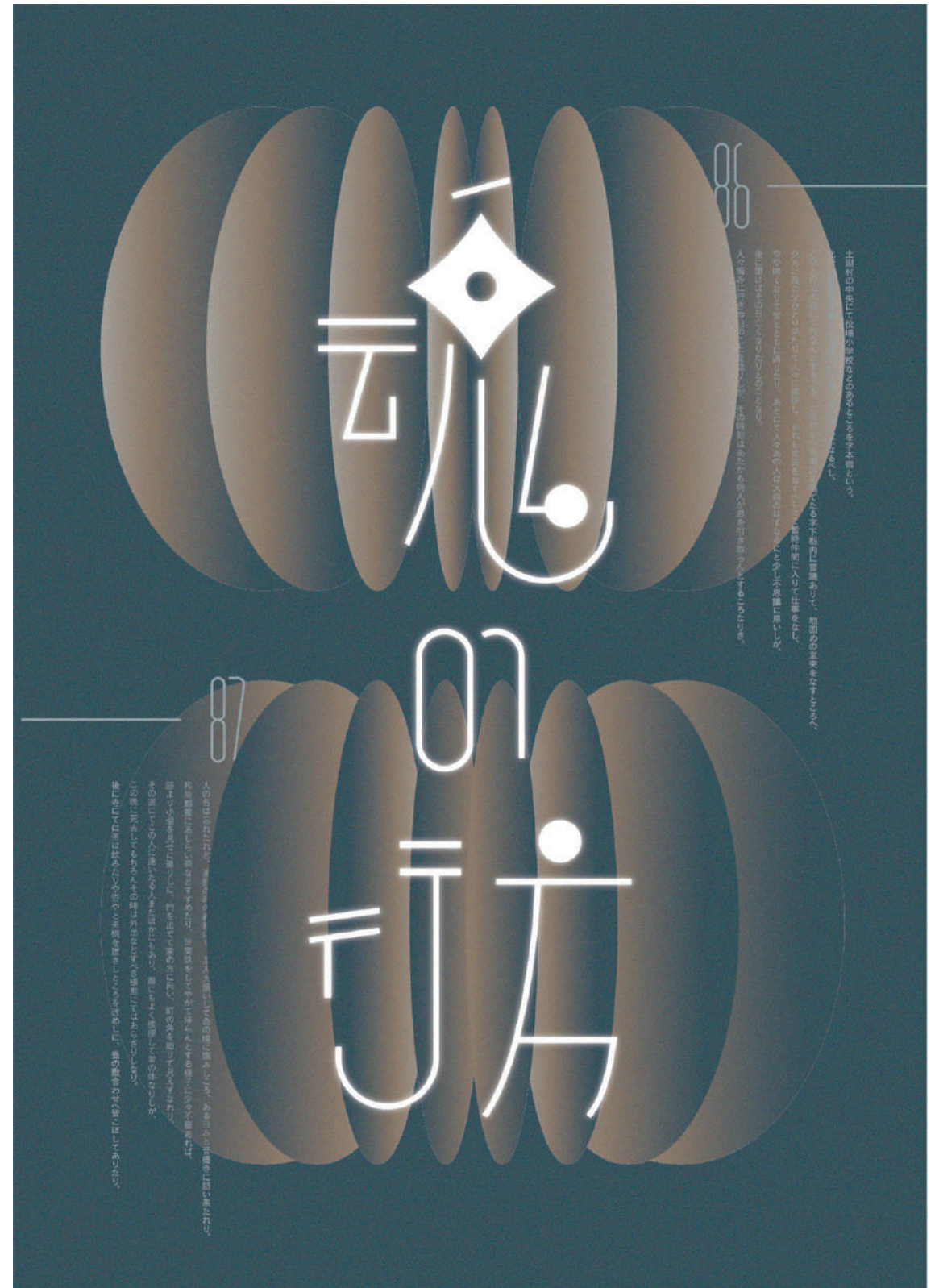
戦慄せしめよ！

及川あかり Oikawa Akari

グラフィックデザイン

B3 ポスター 21点 B5 冊子

『遠野物語』に興味を持ち、読み続けてきた作者のモヤモヤが、発表の場を得て形となりました。現地での取材をもとに、具体性を加味することで、生き生きとした作者の視覚イメージを目にすることができます。物語の進む方向性と奥行きが、文字と色彩で構成され、作者の世界観が現れました。パネルにオフセット印刷で制作しています。(視覚デザイン研究室 三上)





洋画 Katharsis: 神経細胞の反乱 | 白倉向日葵 Shirakura Hinata
ミクストメディア 210 × 1000cm



洋画 雲霄 | 高橋嗣恩 Takahashi Shion
アクリル画 182 × 91cm 他3点



洋画

大雀蜂

京那粹 Kyo Naiki

鉛筆画

162 × 194cm



マンガ・イラスト

コイゴコロ | 目黒朱理 Meguro Shuri

マンガ、アクリル画、ペン画 A5 冊子 他絵画 3 点



陶芸

茶器セット

石原弘翔 Ishihara Hiroto

ろくろ挽き

20 × 40 × 40cm 急須 4点 湯呑み 18点

ティーポットや急須の成形において、日々ろくろ技術の向上に取り組みました。また「自然釉」をテーマとし、様々な釉薬を独自に開発しました。特に蜜柑の皮を原料とした「蜜柑釉」の青の発色は赤土との相性も良く、魅力的な表現を生み出しました。(陶芸研究室 立花)



壁画

四季を楽しむモグラ

熊谷知也 Kumagai Tomoya

モザイク画

50 × 65 × 5cm 他 3点

モザイク画は、絵具で描くのではなく、石やガラスなどの小さな破片を組み合わせることで模様を表現する技法です。



人形 たゆたう | 佐伯美森 Saeki Mimori

球体関節人形 54 × 60 × 72 cm

球体関節人形は、主に西洋の人形で見られる様式です。四肢などの関節部分に球体をあてがうことで、自在にポーズを取ることができます。

教員座談会

大切なのは、 自由に表現すること 自由に語り合うこと

2023年12月のある日。4年生のクラスを担当する2人の教員が、制作活動を通じた学生の成長や、美術を学ぶ意義について語り合いました。

講師 伊勢周平
専門：総合メディア



教授 瀬戸典彦
専門：造形教育



—— 貴学の学生さんの様子について、どうお感じですか。

瀬戸 優しい学生が多いと感じます。優しさとは、他者について深く考えられるということ。これは美術を学ぶうえでとても重要な要素なのです。作品を観るということは作品の背景にある作者の思いに想像力を働かせることでもありますから。

伊勢 たしかに学生どうしの会話も、互いの価値観を認め合ったうえでなされていることが多いように感じます。そのような姿勢が芸術において重要だと私も思います。他者に興味を持ち、相手を認めたいという自分の考えを伝えることで、何らかの「分かち合い」が生まれるのではないのでしょうか。



「Ecologia」小野花梨 プログラミング ゲーム

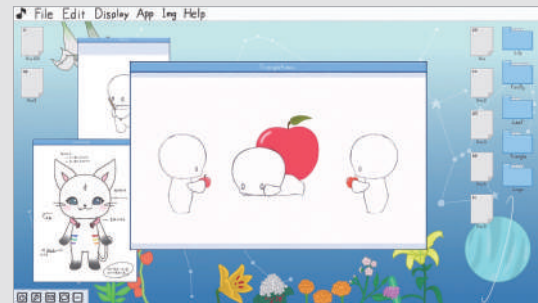
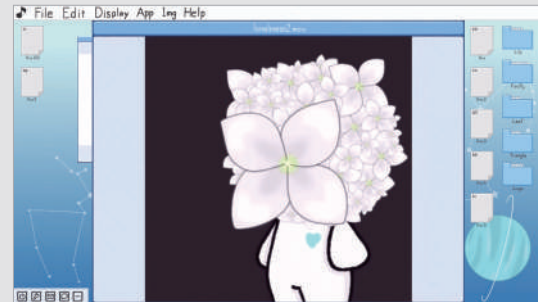


「角娘 ~Horned Girls~」
古舘 真己人 デジタルイラスト

瀬戸 私が学生の頃は、作品について仲間と遠慮なく言い合っていました。それが刺激になっていたし、学ぶモチベーションでもあった。最近の学生はあまりそれをしなくなっている気がするけど、各々が自由に表現し、互いに語り合う中で、信頼関係ができ、もっと優しくなれるのだと思います。

—— 多様な美術分野を学ぶことが貴学の特徴ですが、学生さんにとってどのようなメリットがあるのでしょうか。

伊勢 美術表現には、分野や素材の異なる複数の作品を組み合わせる展示するものがあります。実際、本学の学生にも、陶芸作品と絵画作品を組み合わせる空間芸術として仕上げる、などの試みが見



「limun」
中村真由 コマ撮りアニメーション



「喜劇と悲劇の妾の子らよ」 渡部花音 油彩

られます。さまざまな美術分野を学ぶことができる本学だからこそ、一つの分野の価値観にとらわれずに発想したりそれを形にしたり、ということに挑戦しやすいのだと思います。また、絵画、彫刻、など一つの分野・技法を追求するにしても、別の素材や技術を学んだ経験から新しいアイデアが生まれることがあります。

—— 学生さんに、どのような学びを期待していますか。

伊勢 学生時代は、好きなことに没頭できる時期です。じっくり制作に向き合う中で、自分とは何者なのかを知る手がかりを見つけてほしいですね。

瀬戸 表現者の成長というのはそういうものだと思います。自分の作品とは何か、美術とは何か、と自問し、何かつかみかけたと思ったときに別の何かが見えてきて、つかみかけていたものが答えではなかったことに気づいたりする。その過程に美術の学びの本質があるのではないのでしょうか。それは決して同じところを回っているということではなく、らせん状の道を少しずつ登っているようなことなのだと思う。だから学生には、その経験をしっかりさせてあげたいと思っています。

伊勢 そうですね。制作を通し、自分と向き合っ

たり対象物と向き合ったり、時代と向き合ったりしながら、考え方が多様になったり、堅固になったりして、自分というものが更新されていくのだと思います。その結果として、卒業制作で自分らしい作品を見せてくれたりするのを、私も毎年楽しみにしています。

—— 瀬戸先生は美術史などの授業で学生さんの学びにどのようにアプローチしていますか。

瀬戸 授業で美術作品を紹介する際には、作者のどのような思考の過程があって、作者と作品の関係がどう変化し、どのような葛藤を経てこの作品が生まれたのか、ということを感じられるように意識して話をしています。

—— 授業や制作以外にも、学生さんはさまざまな活動に取り組んでいますね。

瀬戸 今年度の例で言うと、インターンシップを経て大きく成長した学生が何人かいます。以前はインターンシップ希望者に大学側が研修先を割り振っていたのですが、今年度は自分で行きたい職場を見つけて先方と交渉するスタイルに変えました。このため学生たちは最初から自覚を持って主体的に動く必要があった。だからこそ、研修先ではしっかり戦力になって帰ってきたようです。このことは私たちにとっても大きな成果でした。



「再生足付筆筒」 大橋優奈 摺り漆

伊勢 私は、展覧会やディスカッションを通して自分自身や作品について考える「ID 研究クラブ」の顧問をしています。「同級生と美術の話をする機会がありません。学年や性別、専攻にかかわらず、語り合いたい」という学生の声から生まれた研究ク



「if」 小野寺涼音 イラストレーション



「メガネケース」 和嶋望加 焼き付け、乾漆、蒔絵

ラブです。自分たちで展覧会を企画・運営することは、自分の作品を社会にぶつけてみる機会にも、美術をやっている理由を自分自身に問いかける機会にもなります。それに、学生たちが作品や考えを自由に表現し、その存在を社会に示すことは、社会にとっても意義のあることだと思っています。

瀬戸 そうですね。美術家の自由な表現活動は、自由な表現や提案が許容される社会を作らうととても重要な役割を果たしていると思います。その意味で、学生の自由な表現や思考を促す「ID 研究クラブ」のような活動も、社会に大きな利益をもたらしているのではないのでしょうか。そしてそのことは当然、フォークロック研究クラブ、メディア研究クラブ、漆芸研究クラブなど本学の学生たちが取り組んでいるさまざまな活動にも言えることだと思います。

伊勢 研究クラブ活動以外で学生が地域社会と関わっている活動も多いです。その一つが仙台筆筒協同組合と本学との連携事業で、商品デザインや販売促進グッズを学生が考案するなどの取り組みを進めています。参加した学生は伝統工芸を通して地域に対する理解を深めるとともに、美術を生かした地域貢献の可能性を実感していると思います。

—— 大学での学びを、卒業後にどのように生かしてほしいですか。

伊勢 卒業して社会に出ればきっと、所属する組織やコミュニティの存続のために大なり小なり自分の本心を偽らざるをえない場面が出てくるはずで。そのとき、芸術は自身を解放する自由な活動であることを思い出してほしいし、その視点を持ったうえで、自分らしい制作活動をほんの少しでも続けてほしいですね。それは自分のためでもあるけれど、瀬戸先生の言うように、制作・表現し続けること自体が自由な社会に貢献することにもなるのだと思います。

瀬戸 それと、美術を通じた自身との対話から生まれた自尊心を持ち続けてほしいですね。自己の価値を理解することは、他者の価値を認め、尊重する姿勢にもつながると思います。

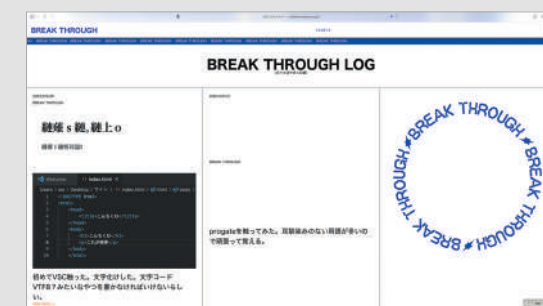
—— ありがとうございました。お話を伺って、貴学で学んだ皆さんの今後のご活躍がますます楽しみになりました。



「人によりそう椅子」 松井あいり プロダクトデザイン



「一心同体」 伊藤ありさ プロジェクションマッピング



「BREAK THROUGH」 竹沢千陽 Web デザイン、インスタレーション



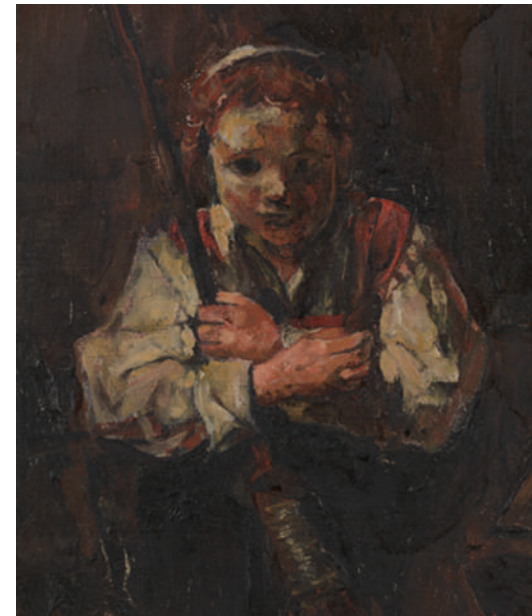
佐藤一郎 「石膏像アリアス素描」部分 1966年 50×36.5 cm
MBM素描紙、木炭、消具(食パン、練りゴム)

「描くこと」を通して
これからの世界を生き抜くために
みずからの「物の見方」を鍛えてほしい

対象物を、見て描き、描きながら ふたたび見ると、よく見えてくる

これまでの人生を振り返ってみると、中学生や高校生の頃は、八幡神社近くに住んでいましたが、「自分とはなにか」「これからどのように生きて行くのか」と、ぼんやりと思っていたようです。縁側に寝そべって、朦朧とする月の姿を眺めると、はるかに遠い、行方も知らない、曇った心の乱れを感じていたのかもしれない。

そのような時期、絵を描くことが唯一の楽しみでした。線を引く、色を塗るという行為が楽しい。画面のなかの、その線と色とを見ていると、心が少し晴れてくるのです。筆を動かすと、次の一手のアイデアが生まれ、線が加えられ、色も加えられる。目を媒介としての対象物と画面との往還は、手の運動によって繰り返され、知らず知らずのうちに、画面は進展します。そこには、自意識によるコントロールを超えた、無意識の心身の働きがあるようです。



佐藤一郎 「レンブラント『箒を持つ少女』模写」部分
1965年 46.5×39.5 cm 画布、油絵具



佐藤一郎 『山越のぬい』 1974年 85.5×85.5 cm
削片板、薄綿布、白亜地、卵テンペラ絵具、油絵具
宮城県美術館蔵

無意識の領域の 自己を発見する

我を忘れて集中していくと、できあがっていく画面は、「あなたはこのように対象物を見ている」と語りかけてきます。今まで気づかなかった自己の底に沈んでいた、まっとうな真実が、画面に現れてくるのです。これが「自己発見」の瞬間なのです。

このような「見ること」と「描くこと」を地道に繰り返すと、それはすなわち「修練」といわれる行為ですが、自分なりの「物の見方」が鍛えられていくのです。印象派の画家ドガは、「デッサンは形ではない。物の形の見方である」と言っていますが、その通りだと思います。

一方で、モジリアニ、ピカソ、レンブラントなどを、色刷りの図版をみながら、模写しました。当時、レンブラントの『箒を持つ少女』は、光が差し込んでいる部分はかなり厚塗りであると思っていました。後年、ワシントン・ナショナル・ギャラリーで対面し、思いのほか、薄塗りの作品で、しかもレンブラント派の作品となっており、驚きました。

「グローバルな地球社会」と 「ローカルな地域社会」

「グローバルな地球社会」が進展するにしたがって、ICT（情報通信技術）や、AI（人工知能）環境が整ってくると、人間の生活と文化は一様化、均一化の方向に向かうかもしれません。その結果、国、地域ごとに培われてきた伝承的および伝統的な生活と文化、いわば「ローカルな地域社会」がそれぞれの個性を失い、個人一人ひとりの違いがなくなってくるように思えます。

そのような世界では、なおのこと目と手と脳が一体化する「描く力」や、その土台にある「物の見方」が重要になります。もともと、「描く力」「物の見方」は、ルネッサンスに生まれ、その写実によって現実世界を実証する見方は、ルネッサンスから、

近代をへて、現代に至るまでの科学技術を発展させる原動力となってきました。

ドイツ留学初期の『山越のぬい』は、「ローカルな地域社会」に育った日本を認識せざるをえない、心の動きが生じ、浄土教絵画の様式を拝借し、初娘の誕生を祝う、個人的な体験を絵画化したものです。絵画技術の側面からは、西洋画の水性絵具と油絵具を併用する重層構造で、作品を組み立てる方法を試みました。

中国の安徽省にある黄山は水墨画の題材として親しまれてきた経緯があります。『黄山北海・石笋峰』は、金箔、にかわえのく膠絵具、卵テンペラ絵具による西洋の重層構造によって組み立てられ、金泥、銀泥は、日本画の画材を用いました。背景には、金箔の鏡面反射を利用し、諧調が醸し出されるようにしています。



佐藤一郎 『黄山北海・石笋峰』 2010年 181.8×227.3 cm
麻布、乳濁液地、金箔、墨汁、金泥、銀泥、膠絵具、卵テンペラ絵具
東京藝術大学美術館蔵

自己を高められる 教育環境

東北生活文化大学の環境は素晴らしく、四季折々、さまざまな樹木、草花が観察できます。自分自身の美意識を^{かんよう}涵養し、四年間、美術を实践できる幸せに恵まれています。本学では、一年次に素描実技を基本に据え、各分野の基本と技法を学びます。三年次からは、徐々に伝統的芸術を現代にこそ生み出そうと志向している絵画、彫刻、工芸などと、コンピュータを用いたデザイン、漫画、動画、映像を表現手段とするコースを選択していきます。教員採用試験合格者も複数名と増加し、大学院をチャレンジする学生も増えています。

また、美術表現学科の教員、副手のみなさんは、学生たちの立ち位置に降り立ち、よく話を聞き、それぞれの学生の制作活動と、人間としての成長を、常に見守っています。

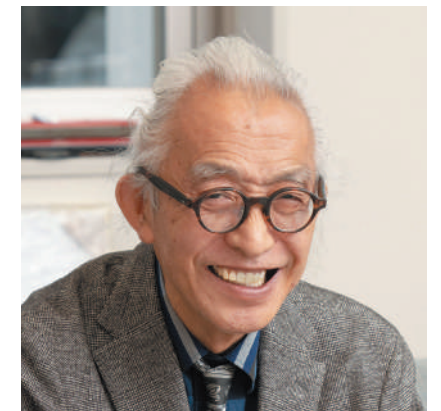
東北の「ローカルな地域社会」の文化芸術を作り出そうと、美術を学び、作り、発表するというあらゆる教育研究環境を理想的な形態に近づくよう努力しています。昨年度からは、7号館も加わり、その教育環境が改善されてきています。



佐藤一郎 『京那粹像』部分 2023年 26×18 cm
粗目アルシュ水彩紙、鉛筆、水彩絵具

佐藤一郎・プロフィール

1946年宮城県古川市（現：大崎市）に生まれ、仙台市で育つ。1970年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻首席卒業。1973年西ドイツ政府給費留学生として、ハンブルグ美術大学に在学。帰国後、東京藝術大学（油画技法材料研究室）講師、助教授、教授をへて、2014年東京藝術大学名誉教授、金沢美術工芸大学大学院専任教授。2019年東北生活文化大学学長。書籍：1980年『マックス・デルナー：絵画技術体系』翻訳出版（美術出版社）。1993年『クルト・ヴェールテ：絵画技術全書』翻訳出版（美術出版社）。2004年『明治後期油画基礎資料集成』（中央公論美術出版）。2005年『トンプソン教授のテンペラ画の実技』翻訳出版（三好企画）。2014年『絵画制作入門』（東京藝術大学出版会）。展覧会：1970年東京藝術大学卒業制作展『透視肖像の圖』（東京藝術大学美術館蔵）。1973年安井賞候補展『透視群像の圖』（栃木県立美術館蔵）。1981年油絵大賞展『ぬい五歳像』（宮城県美術館蔵）。2014年東京藝術大学退任展『蔵王御釜』『那智二ノ滝』（宮城県美術館蔵）、『黄山北海』『那智ノ大滝』『二羽の剥製』（東京藝術大学美術館蔵）。2023年個展（佐々木美術館 & 人形館）。



LAB

東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科 研究室紹介

絵画研究室

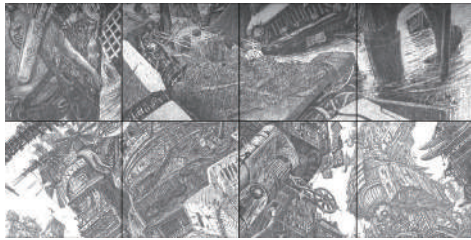


北折 整 教授 [副学長]

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

各人の主題に沿って様々な描画材により制作し、表現力を高めます。

コンテンツデザイン研究室



森岡 淳 教授 [美術表現学科長]

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

人・モノ・場所を繋ぐ「コト」にフォーカスして、価値を創るためのデザインを学びます。

アニメ・映像研究室



鈴木 専 教授

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

アニメーションの作品制作を通して、思いを人に伝える難しさや面白さを経験し、「表現力」と「伝える力」を身に付けます。

視覚デザイン研究室



三上 秀夫 教授 [美術学部長]

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

画面構成やイラストを通して描写力と構成力を身に付け、デザイン表現の幅を広げることを目的とします。

造形教育研究室



瀬戸 典彦 教授

San Diego State University, School of Art, Design, and Art History, Master of Fine Arts 課程修了

アートを成立させる理論的背景について学びます。

情報デザイン研究室



鶴巻 史子 教授

多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了

九州大学大学院芸術工学府博士後期課程修了 博士(芸術工学)

複雑な情報をユーザーにわかりやすく伝達するための表現と情報の可視化について学び、デザイン価値を創出します。

陶芸研究室



立花 布美子 准教授

東北生活文化大学生活美術学科(現 美術表現学科)卒業
京都府立陶工高等技術専門学校陶磁器研究科修了

粘土、釉薬の特性を活かし、美的で機能的なデザインを考え、作品を制作する技能や表現力を身に付けます。

染織研究室



佐々木 輝子 講師

東北生活文化大学生活美術学科(現 美術表現学科)卒業
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

絞り染めや蠟けつ染め等の染色技法を習得し、卓上機や高機による織物製作を通して自身の制作に合った表現技法を探ります。

教育研究室



山口 刀也 講師

京都大学大学院教育学研究科修士課程修了

教育とは何か。古今東西の哲学や実践に学び、歴史に埋もれた子どもの姿と子育ての知恵を探り、考えます。

副手

川角 由 (彫刻・情報デザイン)

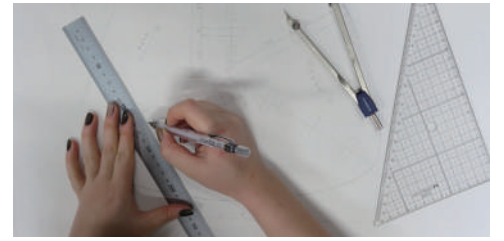
東北生活文化大学 生活美術学科(現 美術表現学科)卒業

菅村 明生 (視覚デザイン)

東北生活文化大学 生活美術学科(現 美術表現学科)卒業

学生生活や授業のサポート、事務から広報物のデザインまで、多種多様な職務を担い、美術学部を支えています。

立体デザイン研究室



落合 里麻 准教授

東京学芸大学教育学部 G 類美術専攻卒業
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

様々な素材の加工や製作現場のリサーチなどを経験し、美しさと機能性を合わせ持つデザインの提案を行います。

総合メディア研究室



伊勢 周平 講師

東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了 博士(美術)

感覚、イメージが個々の表現に結びつくまで考え、実践します。

※ 令和6年6月時点のものであり、次年度以降は変更になる場合があります。

OEUVRE

GRADUATION WORK EXHIBITION 2023

東北生活文化大学
美術学部 美術表現学科
第56回卒業制作展作品集
[ウーヴラ]

発行日

2024年6月1日

企画

鶴巻 史子

[東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科]

デザイン

合同会社ワンエイトデザイン

写真撮影

村田 啓

対談インタビュー編集

加藤 貴伸

発行

東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科

美術学部連絡先

東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1-18-2

Tel/Fax: 022-272-7519

<https://www.mishima.ac.jp/tsb/>

入試に関するお問い合わせ

Tel: 022-272-7521 (入試課)

